

第2回うきは市立義務教育学校新設準備委員会 教育課程部会 議事要旨

開催日時	令和8年10月7日（水）15：00～：16：05
開催場所	うきは市立図書館3階大会議室
参加者	部員：麻生部会長、金子部会員、石井部会員、江口部会員、田中部会員、岡村部会員、 権藤部会員、宮崎部会員、重富部会員、 事務局（教育委員会部局）：松田教育長、熊懷学校再編推進室長、坂本指導主事、佐々木 指導主事、井上学校再編係員 （欠席）江藤学校教育課長、宮原学事係長
議事次第	
1. 開会 2. 部会長あいさつ 3. 議事 (1) 本日の協議事項 ①第1回ワークショップのまとめ ②義務教育学校の教育目標、めざす子ども像 ③義務教育学校の学年区分 (2) 今後のスケジュールについて (3) その他 4. 次回の部会開催日 5. 閉会	
議事要旨	
1. 開会 松田教育長	
2. 部会長あいさつ 麻生部会長	
3. 議事	
(1) 本日の協議事項	
①第1回ワークショップのまとめ ・事務局より報告 ②義務教育学校の教育目標、めざす子どもの姿について ・事務局より「次期学習指導要領 審議まとめ素案」をもとに、めざす子どもの姿についての説明 ・「義務教育学校でめざす子どもの姿」について協議した。 【郷土に誇りをもつ子】 ・地域を愛し、地域から愛される子 ・地域の魅力を感じ、うきは市に住み続けたいと思う子、地域の産業に関わろうとする子 ・郷土に誇りをもち、学んだことを自分や地域の生活に生かし実践できる子 ・地域とつながり、互いに高め合う子 【夢や目標をもち挑戦する子】 ・未来を自分の力で創っていく子	

- ・夢や志をもち、困難に立ち向かい、粘り強く 挑戦する子
- ・目標をもって、心身を鍛える子
- ・自分の「好きなこと」を表現し、学ぶ楽しさを実感し「得意」を伸ばす子

【グローバルな視点をもち行動する子】

- ・海外を志向する子

【自律し、自ら判断し、行動する子】

- ・自分を律する子
- ・自ら判断し、継続して実行できる子
- ・自己選択、自己決定できる子
- ・自分の考えをまとめ、論理的に説明できる子

【他者を思いやり協働する子】

- ・学年を超えてつながる子
- ・後輩を思いやり、頼りにされる子、下学年のスモールティーチャーとなれる子
- ・自他のよさや違いを認め合い、相互理解できる子
- ・大人になっても学校のことを思い出し語ることのできる子

(まとめ)

出された意見を集約し、「夢・志」「地域・郷土」「自律・思いやり」の3つの視点を軸として整理していく方針が確認された。

③義務教育学校の学年区分について

- ・事務局より、学年区分例の6－3制、4－3－2制、5－4制それぞれの特徴について説明。
- ・うきは市の義務教育学校の学年区分について、どの区分が望ましいかについて協議した。

【6－3制が望ましい：4名】

- ・同じ校舎で過ごすのであれば日常的に交流ができるし、環境の変化もなだらかになるので、現在の6－3制を継続しても、中1ギャップの解消ができるのではないかと。
- ・4－3－2制の場合、最後の区切りが2年間と短いので、中学校段階の学習のまとめや進路指導等の時間が足りないと感じるので、6－3制の方がよい。

【4－3－2制が望ましい：4名】

- ・6－3制は現在の子どもの発達段階に合わなくなっている。4年生くらいで心身の大きな成長や変化を感じる。発達段階に即した教育を進めるには4－3－2の区分の方がよい。
- ・校舎を一つにして環境を整えるだけでは、中1ギャップの解消にはつながらないのではないかと。指導体制も含めて、新たな枠組みが必要。

【その他の区分（5－4制）が望ましい：1名】

- ・後期の区分が4年間になると現中学校の3年間より1年長くなり、部活動や学習にじっくり取り組むことができる。

(まとめ)

- ・学年区分については、各案のメリット・デメリットを精査し、引き続き検討を行う。
- ・教員の相互乗り入れや時程の共通化について、先行事例を参考にしながら具体的な検討を進める

必要があるため、教育課程部会の先進校視察を実施すべきとの意見があった。
(2) 今後のスケジュールについて
第3回部会では、学年区分についての方向性を明確にする協議を行い本年度のまとめをする。先進地の義務教育学校への視察を検討し、教育課程や施設運営の実際について調査を行う。本日議論された学年区分の各案について、各部員が職場で意見を収集し、検討材料をまとめる。
(3) その他
なし
4. 次回の部会開催日
準備委員会の進捗を踏まえ、令和9年1月中旬から2月頃を目途に開催予定としている。具体的な日程については、後日事務局より連絡する。
5. 閉会